

1. シンポジウム

開催日	テーマ & 演題	コーディネータ & 講師
平成13年 7月17日 (火) 参加者 171名	『感染症 －21世紀に持ち越された人類の課題－』 － 演題 － 1. 新型インフルエンザの出現 － 新世紀の課題 － 2. C型肝炎ウイルス感染による症状と発症の機序 3. エイズ発症の個人差とそれを決定する宿主因子 4. 地球規模でのマラリア問題とその対策 5. 再び流行の兆しを見せる結核の現況とその対策 6. 院内感染をめぐる薬剤耐性菌感染症の現状と対策	大阪大学大学院医学系研究科 教授 山西 弘一 大阪大学微生物病研究所 教授 堀井 俊宏 － 講師 － 東京大学医科学研究所感染・免疫大部門 教授 河岡 義裕 神戸大学医学部微生物学講座 教授 堀田 博 大阪大学微生物病研究所 教授 塩田 達雄 堀井 俊宏 大阪府立羽曳野病院 院長 露口 泉夫 順天堂大学医学部細菌学教室 教授 平松 啓一

2. セミナー

開催日	テーマ & 演題	コーディネータ & 講師
平成13年 10月5日 (金) 参加者 104名	『ゲノムの損傷を修復するメカニズム』 － 演題 － ・ゲノム全体で働くヌクレオチド除去修復の分子機構 ・ヌクレオチド除去修復、特に転写とカップルした修復について ・塩基損傷と単鎖切断の修復機構 ・二重鎖DNA切断修復とNBS1遺伝子機能 ・RecQヘリカーゼの変異によるゲノム維持機構の破綻と疾病 ・XPVポリメラーゼによる損傷乗り越え複製のメカニズム	大阪大学細胞生体工学センター 教授 花岡 文雄 教授 田中亀代次 － 講師 － 理化学研究所細胞生理学研究室 前任研究員 菅澤 薫 田中亀代次 東北大学加齢医学研究所 教授 安井 明 広島大学原爆放射能医学研究所 教授 小松 賢志 ㈱ジーンケア研究所ターゲット探索研究所 部長 嶋本 顕 所長 古市 泰宏 大阪大学細胞生体工学センター 助手 益田 央豪
12月14日 (金) 参加者 128名	ブレインサイエンスシリーズ 第14回 『小胞体ストレスと神経細胞死』 － 演題 － ・小胞体ストレスに応答して活性化される転写因子 ・小胞体ストレスと小胞体関連分解 ・小胞体ストレス応答に関与する膜キナーゼの役割 ・小胞体ストレス蛋白による神経細胞死抑制 ・小胞体機能障害を引き起こすプレセニン2異常スプライシング ・家族性パーキンソン病と小胞体ストレス	大阪大学大学院医学系研究科 機能形態学講座 教授 遠山 正彌 奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科 助教授 今泉 和則 － 講師 － 京都大学大学院生命科学研究所 助教授 森 和俊 京都大学再生医科学研究所 生体機能調節学 助教授 細川 暢子 教授 永田 和宏 奈良先端科学技術大学院大学 遺伝子教育研究センター 教授 河野 憲二 金沢大学大学院 医学系研究科 脳医科学 神経分子標的講座 教授 小川 智 大阪大学大学院 医学系研究科 ポストゲノム疾患解析学講座 片山 泰一 理化学研究所 脳科学総合研究センター 運動系神経変性研究チーム チームリーダー 高橋 良輔

<p>平成14年 1月29日 (火) 参加者 156名</p>	<p>『自然免疫と獲得免疫のクロストーク』 － 演題 －</p> <ul style="list-style-type: none"> IL-18の生物活性と疾患との関係 LPS認識におけるTLR4、RP105および介合するMDタンパクの役割 自然免疫と獲得免疫をつなぐ Toll-like receptors ウィルスが誘起するヒト樹状細胞の免疫応答とToll-like receptors 自然免疫におけるToll-like receptor 陽性T細胞の役割 抗原提示細胞によるγインターフェロン生産と自然免疫の活性化 	<p>大阪大学微生物病研究所 教授 審良 静男 － 演題 － 兵庫医科大学 免疫学・ 医動物学講座 教授 中西 憲司 東京大学医科学研究所 教授 三宅 健介 大阪大学 微生物病研究所 感染遺伝学分野 教授 審良 静男 大阪府立成人病センター研究所 所長 瀬谷 司 名古屋大学大学院 医学系研究科附属 病態制御研究施設 施設長 吉開 泰信 慶應義塾大学医学部 微生物学免疫学教室 教授 小安 重夫</p>
<p>2月8日 (金) 参加者 160名</p>	<p>『ゲノム医科学の新局面』 － 演題 －</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲノムに基づく神経筋難病研究 体系的解析によるオーダーメイド医療 全ゲノムマッピングによる日本人2型糖尿病遺伝子の解析 プロテオミクスの現状と展開 ゲノムと再生医学 ゲノム創薬の新展開 	<p>大阪大学大学院医学系研究科 教授 戸田 達史 － 演題 － 大阪大学大学院医学系研究科 教授 戸田 達史 理化学研究所遺伝子多型研究センター チームリーダー 田中 敏博 東京大学大学院医学系研究科 助教授 門脇 孝 理化学研究所播磨研究所 チームリーダー 谷口 寿章 大阪大学微生物病研究所 教授 仲野 徹 株式会社ファルマデザイン 代表取締役社長 古谷 利夫</p>

3. 技術講習会

開催日	テーマ・演題	協賛企業・講師
<p>第26回 平成13年 6月8日 (金) 参加者 30名</p>	<p>『BIACOREを用いたプロテオミクス解析』 “ねらい” 蛋白質の機能解析、プロテオミクスを行うことを考えている分子生物学、生化学分野の研究者を対象に、プロテオミクスの研究手法、BIACOREを用いた相互作用解析について解説し、実習を行う</p> <p>■プログラム 技術解説 1. プロテオミクスの概念と最近の展開 2. BIACOREによる相互作用解析の基礎 3. BIACOREを用いたプロテオミクス研究例の紹介 4. BIACOREの実験手法の解説</p> <p>実習 BIACOREを用いたタンパク質相互作用解析 (センサーチップの準備、試料調製法、相互作用解析、データ解析)</p>	<p>ピアコア株式会社 － 講師 － ピアコア株式会社 森本 香織、大橋 武</p>
<p>第27回 9月7日 (金) 参加者 29名</p>	<p>『蛍光タンパクマーカを用いた機能分子と細胞内小器官の局在化ベクター』 “ねらい” 蛍光タンパク質は“生きた一個の細胞”内での特定分子や小器官の可視化を可能にする。これらの蛍光タンパク質を利用したいと考えてる研究者に、クラゲ、サンゴなどから見つかった蛍光タンパク質の紹介と、これらを用いた実際例を示す</p> <p>■プログラム 技術解説 1. 細胞内小器官局在化への新規蛍光タンパク質 2. GFPを用いて細胞内機能タンパク質を見る：リ</p>	<p>クロンテックカンパニー 浜松ホトニクス株式会社 － 講師 － クロンテックカンパニー 松崎 正晴</p>

	<p>アルタイムイメージングとトランスジェニックマウスへの応用</p> <p>3. 細胞内分子の動きを見る</p> <p>実習</p> <p>タイムラプス計測上の注意点</p>	<p>京都府立医科大学第一解剖教室 教授 河田 光博</p> <p>大坂大学大学院医学系研究科 機能形態学講座 教授 内山 安男</p> <p>浜松ホトニクス株式会社 仁平 貴久</p>
<p>第28回 平成14年 2月20日 (木) 参加者 33名</p>	<p>『DNAチップの最新技術(Ⅲ) 遺伝子発現解析法の原理と実技』</p> <p>“ねらい”</p> <p>遺伝子の発現解析を実施しようとしている研究者に対して、DNAチップを中心に新しい技術・手法を加えて説明しDNAチップを用いた実験についてはその実際を含めて紹介する</p> <p>■プログラム</p> <p>技術解説</p> <p>1. 遺伝子発現解析におけるマイクロダイセクションの重要性</p> <p>2. 網羅的遺伝子発現解析法としてのDNAマイクロビーズアレイと機能別DNAチップの紹介</p> <p>3. DNAチップを用いた実験法とデータ解析の概要説明</p> <p>実習</p> <p>1. IntelliGeneとAffymetrix428Array Scannerを用いたDNAチップの実験操作</p> <p>2. アレイ解析ソフトウェア「ImaGene」を用いたデータ解析</p>	<p>— 協賛企業 —</p> <p>宝酒造株式会社</p> <p>— 講師 —</p> <p>宝酒造株式会社 DNA機能解析センター 主任研究員 大門 尚志</p> <p>宝酒造株式会社 バイオ研究所 主幹研究員 峰野 純一</p>

4. 新適塾

(1) 千里神経懇話会

開催日	テーマ・演題	オーガナイザー・講師
<p>第46回 平成13年 5月30日 参加者 52名</p>	<p>『神経の可塑的变化における糖鎖シグナルの役割』</p> <p>— 演題 —</p> <p>1. 神経の可塑的变化に連動する糖鎖付加の検索</p> <p>2. 神経系における細胞接着分子を介した糖鎖シグナル</p> <p>3. 層特異的な視床皮質投射の形成における糖鎖の役割</p>	<p>奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 細胞構造学講座 加藤 敬子 塩坂 貞夫</p> <p>— 講師 —</p> <p>加藤 敬子</p> <p>京都大学大学院薬学研究科 生体分子認識学分野 岡 昌吾</p> <p>大阪大学大学院基礎工学研究科 山本 亘彦</p>
<p>第47回 9月10日 参加者 69名</p>	<p>『サイトカイン受容体とそのシグナル伝達の新知見』</p> <p>— 演題 —</p> <p>1. 筋神経系の再構築とサイトカイン</p> <p>2. SST-REX法により脳からクローニングされた新しいTNF receptore superfamily, TROY</p> <p>3. 高次中枢機能とサイトカイン・シグナル伝達系</p> <p>4. 神経幹細胞、神経再生におけるサイトカインの役割</p>	<p>和歌山県立医科大学 第二解剖 森川 吉博、仙波恵美子</p> <p>— 講師 —</p> <p>大阪体育大学 健康科学 上 勝也</p> <p>和歌山県立医科大学 第二解剖 仙波恵美子</p> <p>和歌山県立医科大学 第二解剖 久岡 朋子、森川 吉博、仙波恵美子</p> <p>東京大学医学系研究科 造血因子探索部門 小嶋 哲郎、北村 俊雄</p> <p>和歌山県立医科大学 第二生理 湯川 和典、坪田 裕司、真壁 恭子 前田 正信</p> <p>京都大学大学院医学研究科 脳神経外科 高橋 淳、堀口 聡士、岸 陽 森実 飛鳥、岡本 洋、橋本 信夫</p>
<p>第48回 10月23日</p>	<p>『神経の発生と再生』</p>	<p>大阪大学大学院医学系研究科 未来医療 開発専攻 ポストゲノム疾患解析学講座</p>

<p>参加者 74名</p>	<p>— 演題 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニューロトロフィン受容体p75を介したシグナル伝達 ・試験管内での神経系を再構築する：基礎と応用 ・神経回路形成と細胞移動における底板の役割 	<p>プロセッシング機能形態分野 山下 俊英</p> <p>— 講師 —</p> <p>大阪大学大学院医学系研究科 未来医療開発専攻 ポストゲノム疾患解析学講座 プロセッシング機能形態分野 樋口 晴久、山下 俊英、遠山 正彌</p> <p>京都大学再生医科学研究所 再生統御学 研究部門 理化学研究所 発生再生科学 総合研究センター 細胞・器官分化 研究グループ 笹井 芳樹</p> <p>大阪大学大学院基礎工学研究科 システム人間系生物工学分野 神経生理研究室 村上富士夫</p>
<p>第49回 11月26日 参加者 49名</p>	<p>『細胞小器官特異的シグナル応答と神経細胞傷害』</p> <p>— 演題 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スプライシング障害と神経難病 ・小胞体・ゴルジ装置機能異常と神経疾患 ・ASK1-MAPキナーゼ系による細胞死の制御機構 	<p>奈良先端科学技術大学院大学 今泉 和則 大阪大学大学院医学系研究科 片山 泰一</p> <p>— 講師 —</p> <p>奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科 細胞構造学講座 今泉 和則</p> <p>大阪大学大学院医学系研究科未来医療開発専攻ポストゲノム疾患解析学講座 プロセッシング機能形態分野 板東 良雄</p> <p>東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子情報伝達学分野 一條 秀憲</p>
<p>第50回 平成14年 1月18日 参加者 62名</p>	<p>『細胞の生と死のバランスの妙』</p> <p>— 演題 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・損傷運動ニューロンの生死を決定する分子機構 ・p53依存性アポトーシスの分子機構：BH3-onlyタンパク質Noxaの機能を中心に ・BH3-Onlyタンパク質DP5/Hrkの神経細胞死誘導機構 ・Bcl-2ファミリー蛋白質による細胞死制御機構の解析 	<p>大阪市立大学大学院 医学研究科 木山 博資</p> <p>— 講師 —</p> <p>大阪市立大学大学院医学研究科機能細胞形態学 瀬尾 (桐生) 寿美子 加藤 隆一、平山 光久、木山 博資</p> <p>東京大学大学院医学系研究科免疫学 渋谷 司、谷口 維紹</p> <p>日本医大老人病研究所免疫 織田 恵理、田中 信之</p> <p>大阪大学微生物研究所 竹田 潔、審良 静男</p> <p>奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 細胞構造学講座 今泉 和則</p> <p>大阪大学大学院医学系研究科遺伝子学 教室 清水 重臣、辻本 賀英</p>
<p>第51回 2月25日 参加者 57名</p>	<p>『ペインリサーチにおける新知見Part 4』 -ATPと痛み-</p> <p>— 演題 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知覚神経節におけるプリン受容体発現 ・ERKのリン酸化から見たATPと痛み ・難治性疼痛におけるATP受容体の役割 	<p>兵庫医科大学 野口 光一</p> <p>— 講師 —</p> <p>兵庫医科大学第二解剖学 福岡 哲男 兵庫医科大学第二解剖 戴 毅 国立医薬品食品衛生研究所薬理部 井上 和秀</p>

(2) 21世紀の薬箱

開催日	テーマ・演題	世話人・講師
-----	--------	--------

第41回 平成13年 5月31日 参加者 40名	新しい治療戦略 第14回 『ポストゲノム時代における創薬科学』 — 演題 — ・糖部立体配座を固定した新しい核酸アナログ BNAの開発とその機能 ・リボザイム技術を用いた転写因子の機能解析 とゲノム創薬への応用	大阪大学大学院薬学研究科 教授 真弓 忠範 — 講師 — 大阪大学大学院薬学研究科 小比賀 聡 東京大学大学院工学系研究科 川崎 広明
第42回 6月26日 参加者 35名	『化粧品の安全性評価』 — 演題 — ・多国籍企業の視点から	大阪大学大学院薬学研究科 教授 那須 正夫 — 講師 — ブロクター・アンド・ギャンブル・ファー・ イースト・インク 学術部・薬事渉外部 笠松 俊夫
第43回 9月25日 参加者 53名	『 $Na^+ - Ca^{++}$ アンチポーター (NCX) : 新しい創薬標的分子』 — 演題 — ・NCXの構造・機能・病態の分子生理学的 解析 - 現状と展望 - ・SEA-400、選択的NCX阻害剤の開発 と薬理	大阪大学大学院薬学研究 教授 馬場 明道 — 講師 — 国立循環器病センター 循環生理部 室長 岩本 隆宏 大阪大学大学院薬学研究科 複合薬物動態学分野 教授 松田 敏夫
第44回 11月27日 参加者 31名	新しい治療戦略 第15回 『インテリジェント化ナノデバイスの設計 と創薬科学』 — 演題 — ・ナノ医療を目指した細胞内薬物動態制御 システムの開発 ・コア-コロナ型高分子ナノスフェアを用い るエイズワクチンの開発 ・薬物送達システムのための生体分解性高分子 ナノパーティクルシステム	大阪大学大学院薬学研究科 教授 真弓 忠範 — 講師 — 大阪大学大学院薬学研究科 薬剤学分野 増田 幸史 鹿児島大学工学部 応用化学工学科 明石 満 岐阜薬科大学 薬剤学教室 川島 嘉明
第45回 12月21日 参加者 20名	『抗酸菌検査の進化』 — 演題 — ・Koch時代から分子生物学の時代へ	大阪大学大学院薬学研究科 教授 那須 正夫 — 講師 — 神戸市環境保健研究所 細菌部 岩本 朋忠
第46回 平成14年 2月28日 参加者 54名	『受容体から見たプロスタノイドの病態と生理』 — 演題 — ・受容体遮断薬はアスピリンを越えられるか	大阪大学大学院薬学研究科 教授 馬場 明道 — 講師 — 京都大学大学院薬学研究科 生体情報 制御学分野 助教授 杉本 幸彦

5. 千里ライサイエンス市民公開講座「成人病シリーズ」

コーディネータ：国立循環器病センター名誉総長 尾前 照雄 先生

開催日	テーマ & 演題	講師
第31回 平成13年 6月23日 参加者 165名	『めまいと難聴』 — 演題 — 1. めまいは病気か？ 2. 難聴と補聴器 3. 立ちくらみ	— 講師 — 京都府立医科大学 神経内科 教授 中島 健二 奈良県立医科大学耳鼻咽喉科学 教授 細井 裕司 国立循環器病センター 客員研究員 西大條靖子

第32回 10月13日 参加者 74名	『人工臓器と再生医療』 — 演題 — 1. 催にあたって 2. 心筋再生への道 3. 人工心臓 4. 人工腎臓	— 講師 — 財) 千里ライフサイエンス振興財団 理事長 岡田 善雄 大阪大学大学院医学系研究科 臓器 制御外科 講師 澤 芳樹 国立循環器病センター 人工臓器部 部長 妙中 義之 医療法人 高橋クリニック 院長 高橋 香司
第33回 平成14年 2月23日 参加者 128名	『肺・呼吸器の病気』 — 演題 — 1. 開催にあたって 2. 息切れと呼吸困難 3. 肺炎とその予防 4. 肺癌—予防から治療まで—	— 講師 — 財) 千里ライフサイエンス振興財団 理事長 岡田 善雄 慶應義塾大学伊勢慶應病院内科 教授 国枝 武義 長崎大学 名誉教授、伴帥会愛野記念 病院 名誉院長 松本 慶蔵 近畿大学医学部第4内科 教授 福岡 正博

6. 千里ネイチャー・カレッジ

回数	開催日	テーマ名	参加者	
			生徒	関係者
第1回	5月26日 (土)	『野鳥・昆虫・植物の観察』 箕面駅→みのお山荘→オケ原池→こもればの森 →地獄谷→箕面駅 (4.5km)	41名	24名
第2回	7月1日 (日)	『サルの観察(I)』 箕面駅⇔滝安寺⇔箕面滝⇔百年橋⇔天上ヶ谷 (サルの餌場) (往復7.5km)	34名	23名
第3回	10月27日 (土)	『サルの観察(II)& シンクスタディーと修了式』 箕面駅⇔滝安寺⇔箕面滝⇔百年橋⇔天上ヶ谷 (サルの餌場) (往復7.5km) (チャーターバスにて千里ライフサイエンスセンターへ) シ ンクスタディーと修了式	37名	23名

7. 千里ライフサイエンスフォーラム

開催月日	テーマ・演題	講師
105回 平成13年 4月18日 参加者27名	『大阪産業の再生待ったなし』	大阪大学大学院国際公共政策研究科 教授 林 敏彦
106回 5月16日 参加者31名	『人間としての妖怪学』 —現代日本人の心を探る—	国際日本文化研究センター 教授 小松 和彦
107回 6月21日 参加者33名	『ヒトを映す人工物：ロボットのからだど ころ』	大阪大学大学院工学研究科 教授 浅田 稔
108回 7月18日 参加者39名	『お茶の文化：東と西』	堺市博物館 館長、和歌山大学 名誉教授 角山 栄
109回 8月24日 参加者28名	『ニホンザルからの警告』—先天性四肢異常 およびスギ花粉症を中心に—	大阪大学人間科学研究科 教授 和 秀雄
110回 9月21日 参加者27名	『企業の危機管理』—ヒューマンエラーの問 題を中心に—	甲子園大学長、京都大学 名誉教授 木下 富雄
111回 10月26日 参加者32名	『おいしく食べてますか?』	大阪大学人間科学研究科 教授 山本 隆

112回 11月15日 参加者41名	『日本文化と宝塚歌劇団』	阪急電鉄株 常務取締役 (宝塚歌劇団理事長) 植田 紳彌
113回 12月13日 参加者39名	『ことばで探る コロンブスの功罪－食材、 薬材、そして病材』	(財)武田科学振興財団 理事長 内林 政夫
114回 平成14年 1月25日 参加者44名	『発泡酒（ビール）の開発・上市とその将来』	サントリー株式会社商品開発研究所 専任部長 永見 憲三
115回 2月14日 参加者23名	『ライフスタイルと健康』	大阪大学大学院医学系研究科 教授 森本 兼曩
116回 3月14日 参加者32名	『終の住処をかんがえる』	国立民族学博物館 助教授 佐藤 浩司